

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：31302

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20054

研究課題名（和文）19世紀後半のベトナムにおける開港と交易秩序変容

研究課題名（英文）The Opening of Ports and the Transformation of the Trading Order in Vietnam in the Late 19th Century

研究代表者

多賀 良寛 (TAGA, Yoshihiro)

東北学院大学・文学部・講師

研究者番号：20963391

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、1870年代の開港がベトナムの交易秩序にもたらした変化を、ベトナム・フランス両国の公文書館に所蔵されている未公開史料から分析した。その結果、開港後も対外交易における華人の優位性は揺らがなかったこと、またフランスが対外交易を開港場に集中させるべく、非開港場での在来交易に強く干渉していた事実が明らかになった。このほか開港場に設置された海関の収支状況や、海関運営に携わっていたベトナム人キリスト教徒の存在にも光を充てることができた。さらに開港後ハイフォンに日本銅が輸入されていた事実を発掘し、開港がアジア間貿易の活性化に繋がっていたことを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来ほとんど研究されてこなかった近代ベトナムにおける開港の問題を、未公開史料から実証的に検討した点に大きな学術的意義がある。漢文とフランス語の文書を対照させるマルチアーカイブ・マルチリンガルな分析手法は、世界的に画期的なものと言えよう。また華人の交易活動、海関の設置、アジア間貿易の活性化といった視点から、ベトナムの開港を比較史のより広い文脈に位置付けることができた。これにより、本研究は狭義のベトナム史のみならず、アジア経済史、グローバル・ヒストリーの面でも大きな社会的意義を持つものとなった。

研究成果の概要（英文）：This study analyzes the changes that the opening of the ports in the 1870s brought about in the Vietnamese trading order based on unpublished documents held in the archives of both Vietnam and France. The results reveal that the dominance of the Chinese in foreign trade remained strong after the opening of the ports and that France strongly interfered with conventional trade at non-opened ports to concentrate foreign trade at the open ports. In addition, we were also able to shed light on the revenue and expenditure of the maritime customs and the existence of Vietnamese Christians involved in the operation of the customs offices. Furthermore, the fact that Japanese copper was imported to Haiphong shows that the port's opening was also linked to the revitalization of the inter-Asian trade.

研究分野：東南アジア史

キーワード：阮朝 開港 交易秩序 アジア間交易

1. 研究開始当初の背景

19 世紀中盤以降のアジアでは、欧米諸国の植民地進出と自由貿易秩序の導入を背景として、多くの港が対外交易に開放されることとなった。一般に「開港」と呼ばれるこの出来事をめぐっては、アジア間交易と華人ネットワーク、近世期の交易管理体制との連続 / 断絶といった問題をめぐり、中国史・日本史・朝鮮史の領域で斬新な研究成果が生み出されている。これに対しベトナム史の分野では、1860 年代のサイゴン開港について優れた分析があるものの、1870 年代における北部～中部諸港の開港について、その歴史的意義は十分明らかにされていない。本研究は、こうした研究史上の空隙を埋め、開港の問題を通じてベトナムをアジア経済史の一環に位置づけるためのプロジェクトとして始まった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、19 世紀後半のベトナムにおける交易秩序の変容を、開港という歴史的出来事に着目して明らかにすることである。具体的には、1874 年に阮朝とフランスとの間で締結された第二次サイゴン条約によるハノイ・ハイフォン・クイニョンの開港を取り上げる。これら三港の開港が阮朝の交易管理体制に与えた影響を、仏越が合同で管理する海関の設置から明らかにし、また開港による交易パターンの持続と変化を、華人商人の活動や沿岸貿易の成長に着目して考察する。さらに中国・朝鮮・日本・シャムなど他のアジア諸国との比較検討を行うことで、ベトナムの開港が持つ歴史的意義をリージョナルおよびグローバルな文脈に位置付けることを目指す。

3. 研究の方法

上記の課題に取り組むため本研究が用いるのは、漢文とフランス語の史料に依拠した、マルチアーカイブ・マルチリンガルな分析手法である。漢文の史料としては、ベトナムの在地政権である阮朝が残した宮廷文書 = 阮朝シュ本 (Chau ban trieu Nguyen) が最も重要である。この史料は、現在ハノイにある国立第一公文書館に保管されている。いっぽうフランス語の史料としては、植民地政庁が残した行政文書・外交文書に加え、パリ外国宣教会の史料群も貴重な情報源となる。これら未公開史料に基づく実証分析の成果を、比較史・関係史の手法により、アジア経済史・グローバルヒストリーの枠組みに位置づけていく。

4. 研究成果

研究の基盤となる未公開史料の収集においては、ベトナム・フランス両国の文書館で順調に調査を展開し、極めて多くの成果を得ることができた。ベトナムでの調査で最も注力したのは、ハノイの国立第一公文書館が所蔵する阮朝シュ本の精査である。その結果、ハノイ・ハイフォン・クイニョンにおける海関運営と交易実態について、多くの新史料を発掘した。このほか漢喃研究院においても、交易管理の問題で対仏交渉の最前線に立った阮朝高官の文集を収集するなど、重要な成果を挙げることができた。いっぽうフランスでの史料調査では、フランス・アジア研究所に所蔵されているパリ外国宣教会史料を調査しえたことが、大きな成果といえる。

これら史料の分析から、以下の四つの新しい知見を得ることができた。

(1) ベトナムの対外交易における華人の優位性は、開港後においても大きく変化しておらず、ヨーロッパ商人は華人との厳しい競争にさらされていたこと。この点は、開港前後において交易パターンに一定の連続性があったことを示唆している。

(2) ハノイ・ハイフォンの開港後も、非開港場における在来貿易は継続しており、フランスはこうした在来貿易を重大な脅威として捉え、干渉を強めていったこと。阮朝シュ本とフランス側史料を対照させた結果、非開港場として重要な経済的意味を持っていたのが、現在のタイピン省に位置する茶里 (Tra Ly) 港であったと判明した。

(3) 開港場となったハノイ・ハイフォン・クイニョンに設置された仏越合同管理の海関は、阮朝の財政システムにとって重要な革新であったこと。海関運営に関する阮朝・フランス双方の会計史料を組み合わせて検討すると、先行研究で指摘されていたのとは異なり、海関が阮朝に無視できない規模の収入を生み出していたことが分かった。また海関運営にベトナム人キリスト教徒が深く関与していた事実も、従来見過ごされていた重要な発見と言える。

(4) 北部ベトナムの開港が、アジア間交易の活発化に繋がったこと。この事実を象徴的な形で示すのは、開港後ハイフォンに輸入されるようになった日本銅の存在である。銅は近世期において日本の重要な輸出品であり、17 世紀には相当規模の日本銅がベトナムにもたらされていた。こうした銅貿易は 17 世紀末～19 世紀前半にかけてほとんど見られなくなるが、開港に伴って日本銅は再びベトナム市場に登場するにいたった。

以上に述べた知見の一部は、すでに 2022 年 10 月に開催された国際学会 (International conference “FROM THE PORT TO THE WORLD: A Global History of Indochinese Ports) において、“The Opening of Treaty Ports and its Economic Consequence in the late 19th Century Việt Nam” とのタイトルで報告している。学会に提出したペーパーは、その後増補とフランス語への翻訳作業を終え、雑誌論文

ないし論文集形式での出版を待っている状態である。また研究課題と部分的に重なる業績として、19世紀前半における阮朝の財政政策を分析し、その成果を国際学会での報告（Taga Yoshihiro, “State Integration and the Fiscal Administration in the First Half of Nineteenth Century Vietnam,” The 5th Asian Association of World Historians Congress）および英語論文として発表した（Taga Yoshihiro, “The Nguyễn Dynasty’s Government Purchase System in the First Half of the Nineteenth Century: Multiple Functions and Economic Rationality,” *Southeast Asian Studies*, 12-1）。これは開港が在地政権の財政基盤に与えた意義を長期的視点から理解するうえで、重要な基盤となる研究である。さらに19世紀末の阮朝とフランスの関係を外交面から検討し、東南アジア学会の全国大会で口頭報告している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Taga Yoshihiro	4. 巻 12-1
2. 論文標題 The Nguyen Dynasty 's Government Purchase System in the First Half of the Nineteenth Century: Multiple Functions and Economic Rationality	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 13-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/seas.12.1_13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 多賀良寛
2. 発表標題 19世紀後半、ベトナム阮朝による対ヨーロッパ使節派遣の再検討
3. 学会等名 第105回東南アジア学会研究大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 TAGA Yoshihiro
2. 発表標題 State Integration and the Fiscal Administration in the First Half of Nineteenth Century Vietnam
3. 学会等名 The 5th Asian Association of World Historians Congress（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TAGA Yoshihiro
2. 発表標題 The Opening of Treaty Ports and its Economic Consequence in the late 19th Century Vietnam
3. 学会等名 International conference "FROM THE PORT TO THE WORLD: A Global History of Indochinese Ports"（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 黄雷龍, 堀川康史, トーマス・コンラン, 朴 秀哲, 銭静怡, ダニエル・シュライ, イーサン・セーガル, 河合佐知子, ポーラ・カーティス, 坂上康俊, 川戸貴史, 菊地大樹, 佐藤雄基, 田中誠, 高橋一樹, 佐藤公美, 多賀良寛, 向正樹, 安平弦司, 王海燕, 高銀美, 亀井ダイチ利永子, ヒトミ・トノムラ	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勉誠社	5. 総ページ数 304
3. 書名 『海外の日本中世史研究：「日本史」・自国史・外国史の交差』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------